



読書山梨

Yamanashi Prefectural Library



ピックアップ県立図書館 ～拡大読書器～

図書館では、文字を読むのが困難な方や小さな文字が見えにくいといった方にも、調べものや読書の機会をもっといただけるように、読書支援のための機器をご用意しています。

その一つである拡大読書器は、手元の資料をモニターに拡大して写し出したものを読むことができる機器です。新聞や事典などの小さな文字や細かい図版などをご覧になる時にも便利です。手元の専用台に読みたい箇所を開いた状態でセットすると、正面の大きなモニターに拡大された画像がカラーで写し出されます。モニターへの表示は、白黒反転も選択できるほか、写し出された画像を見ながらズームを調整することもできます。2階サービスカウンター近くにありまますので、館内での調べものや読書にご利用ください。



Information

イベント案内

- | | |
|-------------------------|----------|
| ■「かいぶらり健康フォーラム」 | 4月22日(日) |
| ■「こどもの日のための腹話術とパペットショー」 | 5月 5日(土) |
| ■「きたぐち音楽会inかいぶらり」 | 5月 6日(日) |
| ■「おんがくかいぶらりXVI」 | 5月13日(日) |

編集後記

新県立図書館が開館してから早5年という月日が経ちました。皆様はこの山梨県立図書館には6つのコンセプトがあることをご存じでしょうか。気になった方は是非、当館HPをご覧ください。これからも山梨県民図書館、を目指し励んでいきます。皆様のご来館を心よりお待ちしております。
(企画振興担当 長久保 秀美)



山梨県立図書館報
読書山梨143号

発行日 平成30年 3月31日



「贈りたい本大賞」

山梨県教育委員会が展開している「やまなし読書活動促進事業」の一環として、「贈りたい本大賞—大切な人に贈りたい1冊—」の募集を行い、この度、「贈りたい本大賞」を決定しました。ここでは、その大賞受賞作品の一つをご紹介します。

鈴木莉々佳さん(長坂小学校)

『うまれてきてくれてありがとう』

にしもとよう／ぶん 黒井健／え 童心社

私は、お母さんが大好きです。どうしてかという、優しくお母さんが笑っているのを見ると、私も笑顔になることができるからです。もし、この世界にお母さんがうまれていなかったら私も生まれていないので、お母さんに生まれてきてくれて、私をうんでくれてありがとうと本で伝えることができたらいいなと思いました。



阿刀田 高館長よりご挨拶 図書館の誇り

「今、人気の〇〇という本、借りられますか」

「はい。でも二カ月待ってください」

山梨県立図書館ではベストセラーの人気本でも一冊しかそろえない。当然 借りたい人が多くて不便をかける。

しかし、これが県立図書館の見識なのだ。決められた予算の中でベストセラーの人気本だからといって5冊もそろえたら、ほかの本が4冊そろえられなくなる。ベストセラーは一年後にはあまり利用されなくなるし、たいていは娯楽のための本である。図書館は娯楽を否定しないが(それも大切なサービスだが)「ご自身の娯楽のためなら、そして書店で今、買える本なのだから、お急ぎならどうか買って楽しんでください」と、これはまっとうな考えではあるまいか。

利用者に不便をかけながら一タイトルにつき一冊という方針を守るのは図書館としてはつらい。評判がわるくなりかねない。しかし、この方針を貫いて、たとえば三年に一回くらいしか利用されない高価な本であっても山梨県立図書館にとって絶対にそろえるべき富士山の本など、そこにこそ予算を注ぎ込まなければならない、と、これが本来の図書館のあり方なのだ。おおかたのご理解をせつにお願いしたいと思う。これこそが図書館の誇りなのだから。



事業報告

連続講座

阿刀田館長連続講座

阿刀田館長が企画し、講師を務める「阿刀田館長連続講座 小倉百人一首を楽しむ」を開催しました。館長の著作『恋する「小倉百人一首」』(KADOKAWA)をテキストに、小倉百人一首の成立と構成、日本語の面白さ、宮中の女性たちについてや、「待つこと」と文学性などについて話しました。講座は、10月から3月にかけて月に1回開催し、全6回出席した受講者には、修了証書と阿刀田館長のメッセージ入りサイン色紙が授与されました。



発行：山梨県立図書館(かいぶらり)

〒400-0024 甲府市北口2丁目8番1号

TEL:055-255-1040(代表) 055-255-1041(施設予約) FAX:055-255-1042

URL: <http://www.lib.pref.yamanashi.jp/>

E-mail: ken-tosho@lib.pref.yamanashi.jp

講演会

贈りたい本大賞表彰式 阿木耀子氏講演会

平成29年11月12日、やまなし読書活動促進事業として「贈りたい本大賞」の表彰式が行われました。受賞者は阿刀田高館長から表彰を受けました。贈りたい本大賞受賞者の応募作は、リーフレットとして配布され、当館HPでもご確認いただけます。

続いて、山梨県立図書館館長企画事業として、『阿木耀子氏講演会 自分らしく生きるために』を開催しました。阿木耀子氏の優しいお人柄の中に、言葉の贈り物をしましょう、自分との対話を重ねて作詞に励んだこと、義父への介護を通じての「SAY YES」という心がけなど、生きる上での言葉の大切さや、受け入れ、そのものを大切にすることが学ばせていただきました。その後館長とのトークショーも開かれ、お二人のこれまでのお付き合い、山口百恵さんから直接、作詞の依頼があったことなどお話をしました。会場の皆様には、温かさや真心が伝わった行事となりました。



朗読会

朗読劇 ほかほか

2月4日、立春の温かみを感じる日に、当館2階多目的ホールにて「朗読劇 ほかほか」が開催されました。昨年、有井幸太さん作「西嶋紙物語 望月清兵衛伝」を催したご縁で、西嶋和紙工業協同組合より和紙で製本された本の寄贈を受けました。そして、西嶋和紙のフロアランプが照らし出す中で、女優の白須慶子さん、神部冬馬さんにより、山梨の秋山の民話、上九一色の民話、また新たに編まれた望月清兵衛口伝が朗読劇として上演されました。神部さんの歌や、白須さんの朗読レクチャー、さらに、井伏鱒二と太宰治の交流の場、梅が枝旅館のお話もあり、大満足のイベントでした。



山梨語り
セミナー

来ぶらり寄席

3月3日、当館2階多目的ホールにて、「山梨語りセミナー 来ぶらり寄席」が開催されました。紫紺亭圓夢さんをはじめとする山梨落語研究会の皆さまによる落語と大喜利の楽しいイベントを開催しました。毎年恒例となっている「来ぶらり寄席」を皆さん心待ちにしておいでで、会場は今回も大入り満員、大盛況でした。特に今年は、立川流真打立川キウイ師匠の友情出演もあり、落語も大喜利もますますの盛り上がりでした。



資料展示
報告

資料展示報告

- 1 「宇宙の今」 【7月28日～9月24日】
- 2 「本に恋する季節です！」 【9月29日～11月29日】
- 3 「やまなしのワインで乾杯」 【10月6日～11月26日】
- 4 「明治維新150年」 【12月1日～1月28日】
- 5 「やまなしの魅力を知っておもてなし」 【12月1日～2月12日】



やまなし読書人

雨宮 美聖さん (山梨県図書館協議会委員 山梨英和大学4年)

「俺たちがその気になればね、砂漠に雪を降らすことだって、余裕でできるんですよ」伊坂幸太郎さんの小説『砂漠』の、序盤に出てくる台詞です。つい最近この小説を初めて読んだのですが、この台詞がとても強く印象に残っています。砂漠に雪が降るといのは普通ならあり得ないことであり、現実離れした「奇跡」とも言えることでしょう。

そんな奇跡を作ったり表現したり出来るのが文学なのだ。また、日常の中でのちょっとした奇跡体験を可能にし、ドキドキした気持ちにさせてくれるものが読書なのだ。少し大袈裟かもしれませんが、『砂漠』を読み終わった時に私はこう思いました。小さい頃、寝る前によく母に絵本を読んでもらっていたのですが、その頃から本や読書が大好きになりました。今思えば当時から、ドキドキした気持ちになれることや奇跡体験が出来ることを、読書の大きな魅力として捉えていたのかもしれない。